

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	呉市立川尻中校区
代表者所属校 校長氏名	呉市立川尻小学校 山田 幸治

1 目指す児童生徒像

- 基礎学力を身に付け、自分の考えを進んで表現できる児童生徒
- 地域を愛し、感謝と思いやりの心を持ち、貢献しようとする児童生徒

2 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資 設 定 し 能 た 力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自立・郷土愛
後 期	各教科における基礎学力を確実に身につけることができる。	既習事項を関連付けたりよりよい表現方法を検討したりしながら、自分の考えを効果的に伝えることができる。	自分で目標を決め、主体的な計画のもとに進んで取り組むことができる。（自立） 故郷への愛着と誇りを持ち、故郷に進んで貢献しようとするすることができる。
中 期	各教科における基礎学力を確実に身につけることができる。	自分の考えを相手や目的に合わせた適切な方法で伝えることができる。	自分で目標を決め、やるべきことに計画的に進んで取り組むことができる。（自立） 地域の一員として地域に感謝や思いやりの心をもって行動することができる。
前 期	各教科における基礎学力を確実に身につけることができる。	分かったことや考えたことを分かりやすく伝えることができる。	目標をもち、やろうと決めたことに粘り強く取り組むことができる。（自立） 体験を通して地域の人や自然の良さを知り、地域に愛着をもつことができる。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題

主体的に学ぶ児童生徒を育成する教育活動の創造
一児童生徒が問いを発する授業づくりを通して一

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、4・5月と休校と休校が続き、学校が再開されてからも、学習の遅れを取り戻すことを優先した。そのため、予定していた取組が思うように進められないことが多かった。その中で、感染予防対策をとりながら「確かな学力」「夢や志

を育むキャリア教育」「健やかな体」の3部会で工夫し、できることを模索しながら取組を進めた。

学力についての取組では、グループ学習をする機会は減ったものの、理由や根拠を考える時間を十分取ることで、自分の意見をしっかりもったり、考えを深めたりすることができるようになった児童生徒の割合が増えた。また、学力に課題のある児童生徒への支援として補充学習も継続して行うことができ、児童生徒の意欲が高まってきたのを感じることができた。小中の交流活動では6年生の児童がオープンスクールで中学校の授業を体験したり、部活動の様子を見学したりしたことで、進学前の不安が解消されたという声が聞かれた。また小中合同で「元気アップ3DAYS」の取組をすることで3色の食べ物に対する意識が高まった。

しかし、授業を含め日常生活における児童生徒の依存的な態度はまだ改善の余地がある。特に授業では、以前に比べて発言する児童生徒は増え、お互いの意見を交流しようとする態度は育ってきているものの、課題に対して自らが問いを発することがあまりない。教師に依存する姿は、小中共に大きな課題である。また中学校では自己肯定感を感じている生徒の割合が少ないのも課題である。

そこで、今年度は中学校区で育成を目指す資質・能力について3部会で再度話し合い、めざす児童生徒の姿を確認する。そして、カリキュラムマップを基にして、総合的な学習の時間を核として各教科を横断的に関連付け、資質・能力の向上を図るようにする。

その中で川尻の地域の特色を活かした活動を仕組むことで、児童生徒が動き出したくなるような課題をもたせ、主体的な問題解決活動へつなげられるようにしていきたい。

また、小中学校共通の課題である「書く力」の向上を図るように工夫をしていく。

それらの取組の中で、児童生徒が自己肯定感を自覚することができるように研究を推進していく。

4 研究内容

(1) 学力向上に向けての取組

- ① 「課題発見・解決学習」をもとにした「考える授業」の実践
- ② 表現力の向上
(「条件付き作文」や「生活ノート」によって書く力をつける)
- ③ 学力補充教室など個別指導の充実
- ④ 読書活動の充実
- ⑤ 家庭学習習慣の定着に向けた取組(「家庭学習の手引き」や「補充教室」の活用)

(2) 夢や志を育むキャリア教育

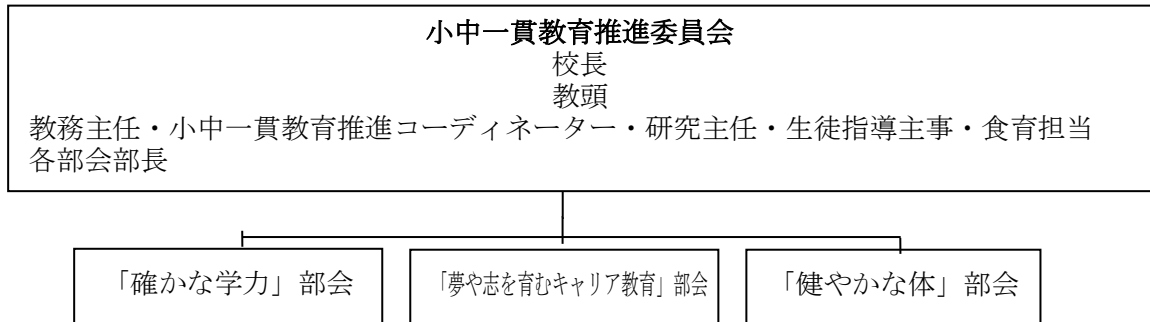
- ① 無言清掃への取り組み方を統一して実施。
(「もくもく掃除」や「無言清掃」の意識を高め、良さを実感させる)
- ② 小中交流での地域貢献(挨拶運動、小中合同清掃活動(4・9清掃)等)

(3) 食育や体力向上に向けての取組の充実

- ① 「食育の9年間のストーリー」を活用した小中一貫の食育
- ② 定期的な小中一貫の「元気アップ3DAYS」の実施
- ③ 「くれチャレンジマッチスタジアム」への積極的な参加

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業（中→小，小→中）

- 外国語（英語教員による）：小学校第6学年（各学期に1回程度）
- 学級活動（栄養教諭による）：中学校第1・2・3学年，特別支援学級（小→中）

イ 小学校教科担任制等

- 第3～6学年 理科
- 第3・4学年 図画工作
- 第4学年 書写
- 第5・6学年 音楽
- ※高学年で交換授業 4月になってから決定

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

- 各教科において，資質・能力の育成において「課題発見・解決学習」をもとにした「考える授業」を実施することにより，主体的に学ぶ児童生徒を育成することができるであろう。
- ボランティア活動などの体験活動を通して，一人一人の良さを認め合い，お互いを尊重し合うことで，自尊感情が育ち，地域に対して愛着・自立・貢献しようとする気持ちをもつ児童生徒が育つであろう。

(2) 検証方法

- 児童生徒・教師へのアンケート結果
- 「元気アップ3DAYS」の結果分析
- 検証テストの結果
- 各種学力調査の結果
- 児童生徒の行動

7 推進計画

月 日	内 容
5月10日（月）	第1回小中一貫教育合同研修会 幼保小中顔合わせ会 全体会・各部会
11月12日（金）	第2回小中一貫教育合同研修会 中学校授業参観
1月25日（火）	第3回小中一貫教育合同研修会 小学校授業参観

※定期的に小中一貫教育推進委員会を行い，進捗状況の確認や情報交流を行う。

8 その他

- 各校での取組の様子が交流できるよう小中一貫便りを学期に1回発行する。